

【禁忌（次の患者には使用しないこと）】

歯科領域の場合：本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

【組成・性状】

組成：ホルムアルデヒド35～38%を含む。
性状：無色透明の液体で、そのガスは粘膜を刺激する。
長く保存するとき、特に寒冷時に混濁することがある。

【効能・効果】／【用法・用量】

医療機器の消毒、手術室・病室・家具・器具・物品などの消毒
（使用対象により、通常、次のいずれかの方法を用いる）

①ホルムアルデヒド1～5%溶液による浸漬、又は拭拭を行い、
2時間以上放置する。

②ガス消毒法：気密容器中あるいは密閉環境内において、容積
1m³に対してホルマリン15mL以上（ホルムアルデヒドとして
4g以上）を水40mL以上とともに噴霧又は蒸発させ、7～24時
間又はそれ以上放置する。蒸発を速めるためには、ホルマリ
ン15mL以上を希釈（5～10%）し加熱沸騰させる方法、ホル
マリン15mL以上に対し水40mL以上及び過マンガン酸カリウ
ム18～20gを加える方法などを用いる。

・歯科領域における感染根管の消毒：原液にクレゾール等を加えて用いる。

【使用上の注意】

1. 重要な基本的注意

- (1) 人体に使用する場合は歯科領域にのみ使用すること。
- (2) 皮膚、粘膜（眼、鼻、咽喉等）に刺激作用があるので皮膚、
粘膜に付着しないようにすること。なお、付着した場合には
多量の水で洗い流すこと。また、眼の場合には、水洗後
直ちに専門医の処置を受けること。
- (3) 蒸気は呼吸器等の粘膜に刺激作用があるので、吸入又は接触を避
けること。

2. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施し
ていない。

(1) 重大な副作用 歯科領域の場合

ショック、アナフィラキシー（強度不明）：
ショック、アナフィラキシーがあらわれることがあるので、観察を
十分に行い、尋麻疹、そう痒、呼吸困難、血圧低下等の異常が認め
られた場合には、適切な処置を行うこと。

(2) その他の副作用 歯科領域の場合

歯根膜、根尖孔外に溢出した場合、歯根膜に過刺激が加わり歯根膜
炎（強度不明）を起こすことがある。

販売包装単位



(01) 14968276020418

販売包装単位



(01) 04968276020411



殺菌消毒剤

※2017年1月改定

創薬

日本薬局方

ホルマリン

ホルマリン 恵美須

FORMALIN

20kg

規制区分：劇薬

貯法：遮光した気密容器
室温保存

注意：「取扱上の注意」の項参照 ※火気注意※

●●未来を見つめ生活を化学する●●

恵美須薬品化工株式会社

製造販売

大阪市西成区出城2丁目2番20号 TEL：06-6561-5016

本社

大阪市中央区内平野町3丁目3番2号 TEL：06-6941-8287

日本標準商品分類番号	877321 87273
承認番号	61AH-2443（薬価基準収載）
薬価基準収載	1986年 3月
販売開始	1986年 3月
再評価結果	1983年 4月（歯科領域は1990年 3月）

3. 使用上の注意

1. 投与経路：外用にのみ使用すること。（歯科領域を除く）

2. 使用時

1) 顔面を避けるため、保管及び取扱いには十分注意すること。

2) 消毒後、残留するホルムアルデヒドは適切な方法で除去す
ること。（例えば、水洗、アンモニア水の散布、蒸発等）

【取扱上の注意】（注意）

①規定濃度を下回らない新鮮な消毒剤を用いるとともに消毒時間を
守ること。

②被消毒体と消毒剤との接触を十分にすること。（例えば、体液等
の付いた器具、油の付いた器具、重ねたままの衣類等はやくない。）

③被消毒体の量、被消毒体による消毒剤の吸着などを考慮し消毒剤
は適宜増減すること。

④高温であるほど消毒効果が高まるので18℃以上に保つようにす
ること。（ガス消毒の場合は、同時に湿度も75%以上に保つこと。）

⑤本剤により変質を来すもの（ある種の染色製品、革製品など）が
あるので注意すること。

⑥深部まで消毒剤の到達し難いもののガス消毒には、真空装置を用
いること。

⑦本剤は長く保存するときや寒冷時にはパラホルムアルデヒドを生
成して混濁することがあるが、混濁に浸して少時間温めると消滅
する。ただし、蒸気消毒の場合には溶かす必要はない。

【配合禁忌】

・アンモニア、水酸化アルカリ、たん白質、及び重金属塩、ヨウ素、
易還元性物質は分解されるので配合しないこと。

使用期限：

Lot. No. :



本体
キャップ